一核も戦争もない平和な21世紀に!一 V Report R

MAKAKAKAKAKAKAKA

広島・長崎の原爆投下から69年。被爆された人々の高齢化がすすみ、戦争の惨劇を後世に伝えることが困難になりつつあります。現安倍政権による集団的自衛権の行使容認に向けた動きは、平和な日本を脅かしかねません。戦後70年を目前にして平和国家としてのあり方が問われています。

核廃絶にむけたとりくみについて学ぶことや、平和教育の推進を目的に、県教組から家族参加を含めた34名が、原水爆禁止世界大会長崎大会に参加しました。大会は8月7日~9日の3日間にわたり長崎市内で開催され、参加者はそれぞれ選択した分科会・フィールドワークや全体行事に参加しました。その模様を紹介します。

接も戦争もない平和な21世紀に!

開会総会において田上富久長崎市長は「被爆者の高齢化が進んでいる。 今のうちに語り継ぐ事が大切だ。また、核兵器の非人道性を国際社会に訴える市民の活動が重要だ」と語りました。また"被爆者の訴え"では、爆心地から10.2キロの地点で被爆したにも関わらず、長崎市外だったことから被爆者援護の対象から外された「被爆体験者会」の山内武さんが「長年、差別を訴えてきたが、2002年に支援事業が始まったものの、すぐに改悪された。いま裁判を起こしている」と支援を訴えました。

長崎ブリック ホールにて開会 総会が行われま した。

開会総会の後半では長崎の高校生の運動から始まった「高校生平和大使」と「高校生1万人署名活動実行委員会」の代表者が登壇し、平和署名のよびかけを行い、さらに国連欧州本部訪問などの抱負を語りました。

開会総会の翌日には"見て・聞いて・学ぼうナガサキ"など8つの分科会が開催され、"被爆遺構めぐり"や"バスツアー小浜温泉バイナリー発電"など6つの「ひろば・フィールドワーク」も行われました。

分科会"見て・聞いて・学ぼう ナガサキ"の様子

教職員被爆者の会の八木道 子さん(元教員)。平和継承 の重要性を訴えました。

"被爆遺構めぐり"フィールドワーク



平和公園入口横には戦 争当時の防空壕の跡が 残されています。

少年平和像

原規ですべてを失去本板児童が平和 を願って立ち上かる姿をかたとったもので 京部外作者は富永良雄で昭和26年 8月8日に作られましたモデルの少年は当時5年至で父母を原火夏でなくしました 一色の平和の文字は当時6年至だった 管原耐えて人の書でま削まり、は1年生の時 に被火環にましたが奇勢的に動かり ました。 漫画家の西岡由香さん。漫画で原爆の怖さを伝えました。

/ 爆心地から500 m西にある城山小 学校には、平和へ の願いをこめた少 年平和像と千羽鶴 があります。



8月9日は長崎県立総合体育館で 閉会総会が行われ、「川内原発の 再稼働に反対し、脱原発社会をめ ざす決議」と「被爆69周年原水爆 禁止世界大会・大会宣言」が承認 されました。

総会後、爆心地公園まで非核平 和行進が行われ、参加者は、核兵器の廃絶をアピールしました。 原爆投下時刻の午前11時O2分に、爆心地公園内にいたすべての

人々が静かに黙祷を捧げました。



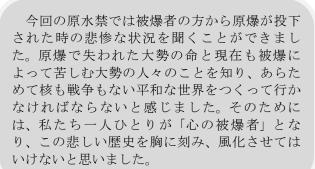


平和行進には2000人以上が参加。

8月9日早朝に 慰霊碑墓参りを 行いました。 爆心地公園の慰 霊碑に多くの人、 が集いました。



~ 原水禁大会参加者の感想 ~



私は平和が当たり前の時代に生まれ育ったが、祖父が戦争体験者であり、体に傷を負った跡を見せてもらったことがある。集団的自衛権で持たが、ただただとが大きなの世代が核や戦争がないととを願うばかりである。戦争は二度と繰り返して方のおおいこと、戦争を体験した方のおおちて人の使命だと改めて感じた。





被爆体験をされた方が高齢になり、語り部等を続けられなくなる日はそう遠いことではない」という不安の声は全く同感である。国民すべてを巻き込み、国民すべてを不幸にした戦争の悲惨さや人の心を狂わせる地獄のような世の中を伝えてくれる生の声は、どんな資料や写真にも勝ると思う。戦争を体験しない世代への被爆者の思いの引き継ぎは、急務であると強く感じた。

(参加者のお _子様の感想

原水ばくきん止運動にさんかするために、家族4人で、長崎に行きました。原ばくし料館に行ってボランティアのおじいさんからいろいろな説明を聞きました。その話やてんじ物からどれだけ原ばくがひさんかわかりました。それに長崎の原ばくの何百倍の原ばくや水ばくがあるとききおどろきました。そんなものを使うと地球がこわれるのでぜったいにやめてほしいです。そしてかく兵きは、すべてしょぶんしてほしいです。



/一モア・ヒロシマ! /一モア・ナガサキ! /一モア・ヒバクシャ!

